

多様性を活力とした持続可能なまちづくり

～外国系市民が活躍するドイツ・エアランゲン市のまちづくりに対する価値観から学ぶ～



高松 平藏／ドイツ在住ジャーナリスト

2021年10月7日

自治体国際化協会ロンドン事務所
第8回オンラインセミナー

スライドをスクリーンショット等で切り取った上、SNSやブログへの掲載はご遠慮ください。



高松 平藏（たかまつ へいぞう）

- ジャーナリスト。2002年からドイツ・エアランゲン市在住
- 中心テーマ「都市の発展」
- 取材・調査・参与観察を通して執筆活動
- 講演・講義、エアランゲンで研修プログラム「インターローカルスクール」
- 著書「ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか」など



結 論

- ドイツは「デモクラシークラブ」。外国系市民はこのメンバーになってほしいと考えている。
- 地域社会で必要なのは理論と実践



1. ドイツの「外国系市民」



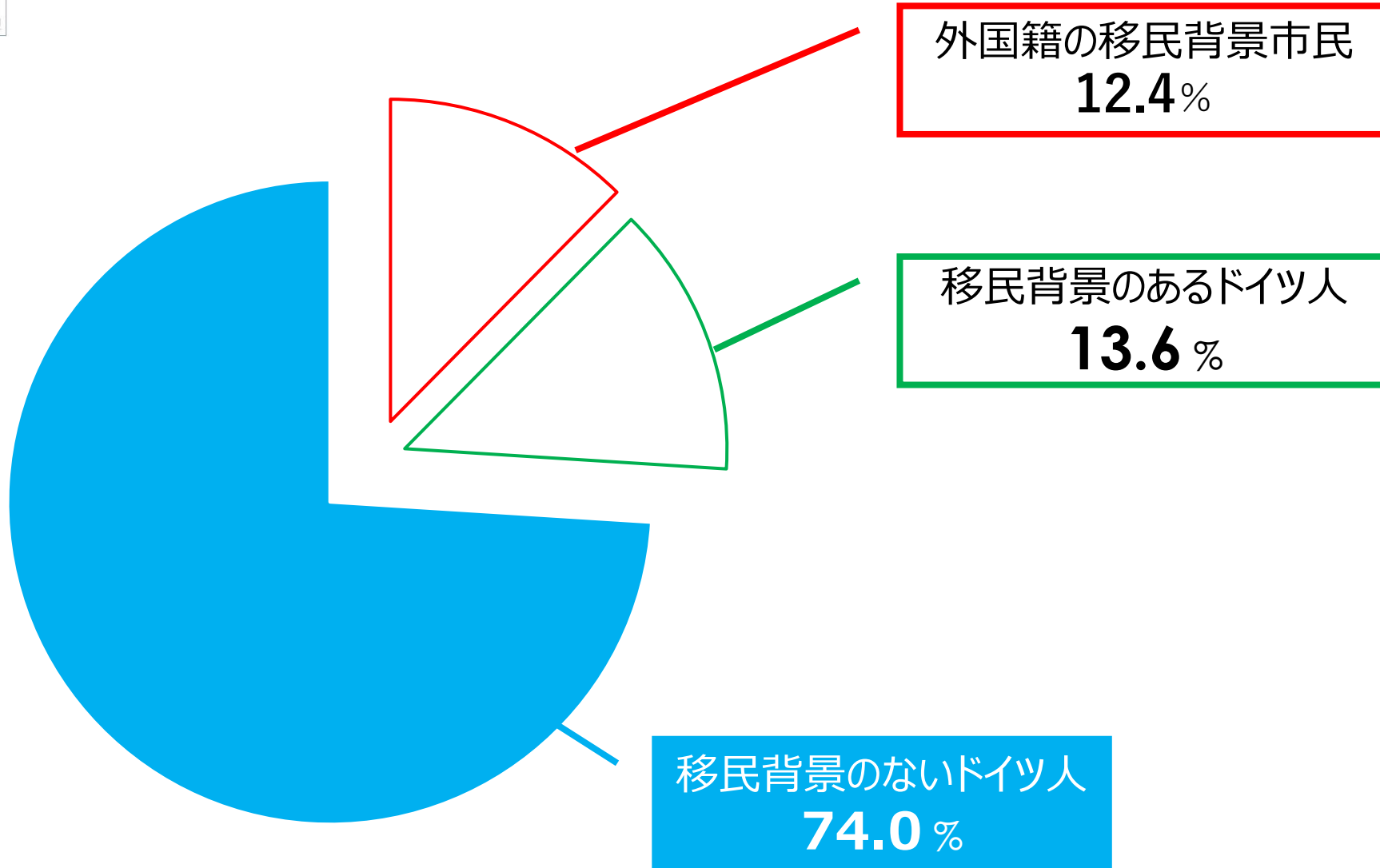


外国系市民→「移民背景」

- ドイツに居住している外国人
- ドイツ生まれの外国人
- 両親のいずれかが外国人
- ドイツ国籍取得者
- 先祖がドイツ人で外国から帰還した人

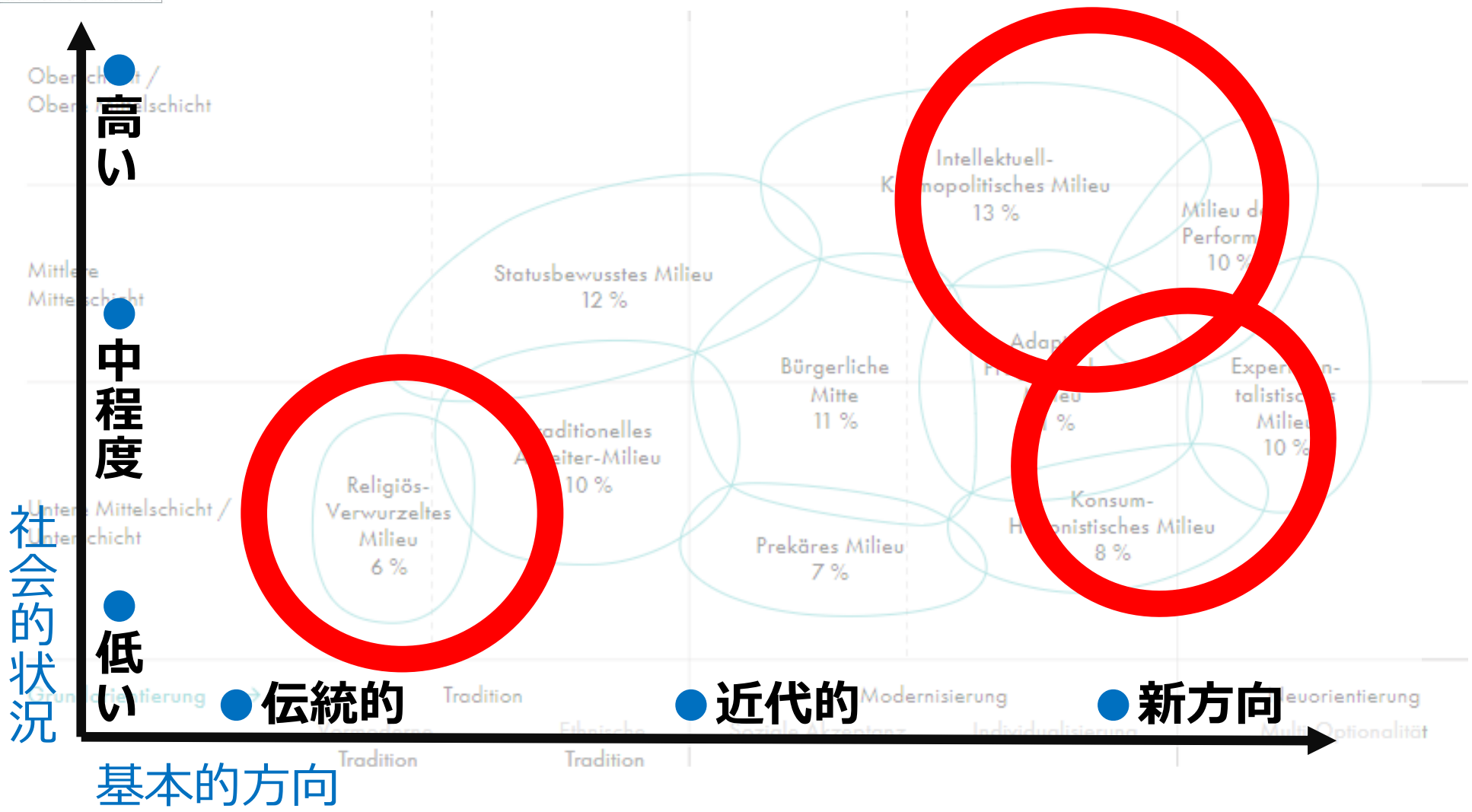


ドイツの移民背景市民はどのぐらいいる？





どんな外国人がいるのか？



© Takamatsu, Heizo



2. 地方都市で何を行っているか





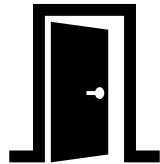
エアランゲン市の取り組み

※エアランゲン市

バイエルン州に位置する人口約11万人の都市。たまたま高松が住んでいるので同市の例をあげているだけです。

オリエンテーション

- ウェルカムセット
- 難民のための語学コース提供



政治・社会参加

- 外国人・統合諮問委員会
- インテグレーション会議



都市のプロフィールづくり



- BIGプロジェクト

- 書籍「われわれはエアランゲン」
- 展覧会は『私のインターカルチャー・エアランゲン』
- 多様性のためのコミュニケーション「ピクニックパーティ」



異文化理解



コミュニケーション

高松平藏 写真展「**頭の布のアート**」(2019年エアランゲン市)





3. 都市発展と外国系市民



外国人がいることは「ポジティブ」だ

リチャード・フロリダ「クリエイティブ・クラス」
クリエイティブ経済に必要な要素

寛容

技術

才能

「寛容」を支える層

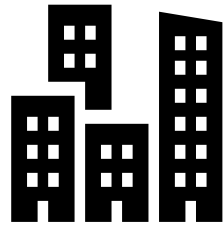
ゲイ | 外国人 | 芸術家

多様な価値観が化学反応をおこす。が、実は多様性を「創造的な都市づくり」の源泉にするのは大変難しいのではないかな？



経済立地条件を高めるドイツの都市

異文化理解、ス
ポーツ、教育への
スポンサリング



拠点地の信頼性
が高まる

異文化への理解と寛
容を持った市民（従業
員）が増える

- ドイツ企業・金融機関の動きを見ていると、事業拠点の信頼性を高めることになる取り組みが見いだせる
- 前提になるのは職住近接。



4. デモクラシークラブとしてのドイツ





ドイツは「デモクラシークラブ」

脆弱性排除し、理想形の実装を試みる

地域社会の細部にやどっている

投票だけがデモクラシーではない



デモクラシーの価値



- 政党制
- 連邦制
- 社会福祉
- 平等な権利・寛容・宗教の自由

平等な権利・寛容・宗教の自由



- 相互の敬意と信頼
- 一体感
- 責任の共有

大前提

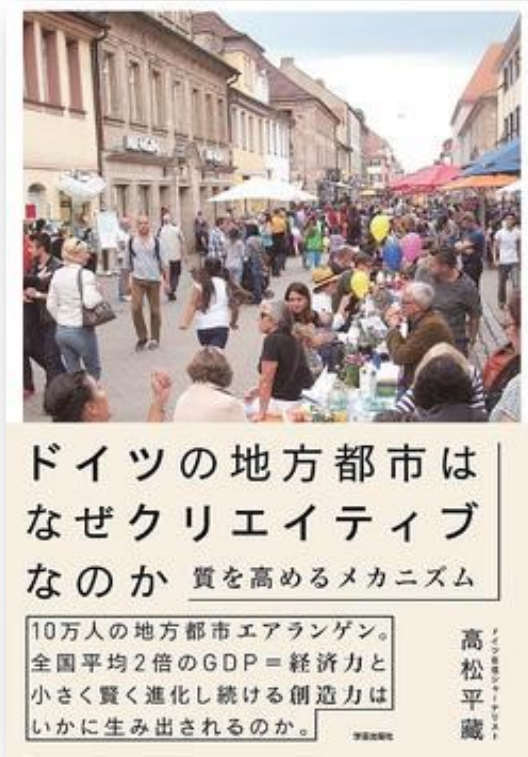
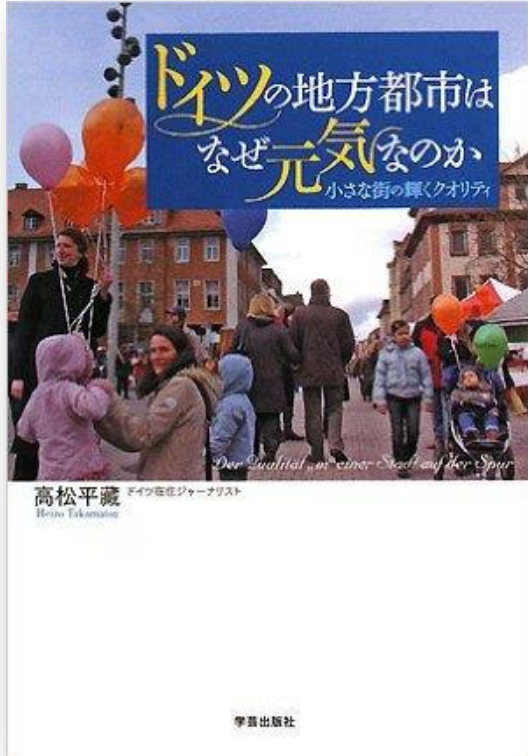
視点を変えて：SDGsとデモクラシー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



- SDGsの要素は経済・社会・環境に分けることができる。
- 究極的にいえば「人間の尊厳」を実現する環境づくり（高松私見）
- 欧米の文脈でいえば「再帰的近代」のパッケージ化（高松私見）
- そのせいかドイツではあまり知られていない。



参考文献にどうぞ



コンタクトとインフォメーション

クリックすると、それぞれのページ等にジャンプします。



[個人ページ](#)

[インターローカルジャーナルのページ](#)

